

Interop Tokyo 2013 出展報告

NICTは、インターネットとデジタルメディアの専門イベントであるInterop Tokyo 2013 (6月12～14日 幕張メッセ)に出展しました。

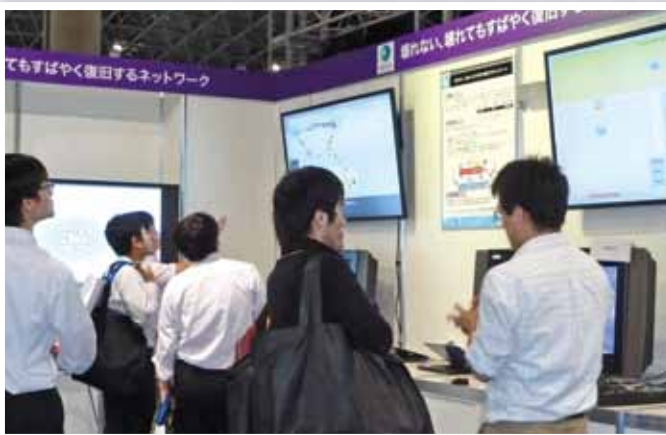
「明るい未来の実現をめざす新世代ネットワーク技術」をテーマに、「新世代ネットワーク技術」「テストベッド技術」「ネットワークセキュリティ技術」に関して次のような成果を展示しました。

ご来場いただいた皆様からは活発なご質問やご意見をいただき、クラウド・ビッグデータ時代のネットワーク運用やセキュリティ管理についての関心の高さが伺えました。また、サイバー攻撃統合分析プラットフォームである「NIRVANA改」と、重要性や緊急性が高い特定のWiFi通信のつながりやすさを優先的に向上させる「仮想化対応WiFiネットワーク」は、展示会直前にプレスリリースしたこともあり、多くの方にご注目いただきました。

さらに「是非とも社内で使ってみたい」、「いつ頃実用化される見込みなのか」といったご意見も多くいただき、今後の研究の励みとなる貴重な機会となりました。

展示内容

〈新世代ネットワーク技術〉



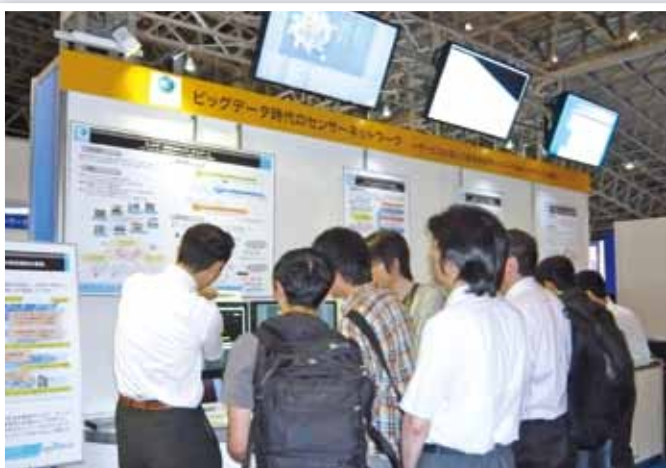
●壊れない、壊れてもすばやく復旧するネットワーク

IPアドレス（ロケータ）の階層的自動割当機構（HANA）を利用した代替経路への切替デモ展示、およびIPアドレスと異なる識別子（ホストID）を利用する機構（HIMALIS）を用いた障害時でも通信を継続するデモ展示を行いました。



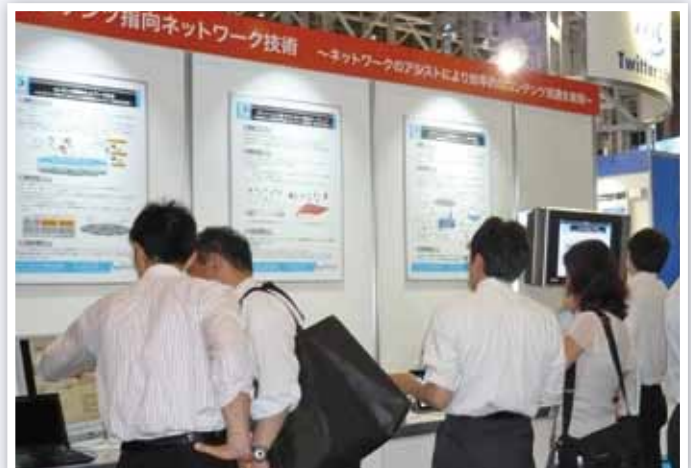
●光パケット・光バス統合ネットワークシステム

ネットワーク管理システム、光パケットネットワークの性能に応じた通信リンクの自動切替、および光パケット用高速ヘッダ処理装置の成果展示を行いました。



●ビッグデータ時代のセンサーネットワーク

膨大な数のセンサー情報によるビッグデータを活用するためのセンサーネットワークの基盤として、サービスの要求や状況の変化に応じた高可用なネットワークをオンデマンドに構成可能とする要素技術の展示を行いました。



●コンテンツ指向ネットワーク技術

コンテンツ取得のレスポンスを向上させるためのコンテンツサイズ適応型ネットワーク内キャッシュ制御技術、およびネットワーク内キャッシュにあるコンテンツの高速発見と配信を実現する技術についてデモ展示を行いました。



来場者で賑わうNICTブース

〈テストベッド技術〉



●広域OpenFlowテストベッド RISE

企業や大学の研究者などのユーザがネットワークを柔軟に制御し、独自の実験が可能な広域OpenFlowテストベッド RISEの運用管理システムのデモ展示を行いました。



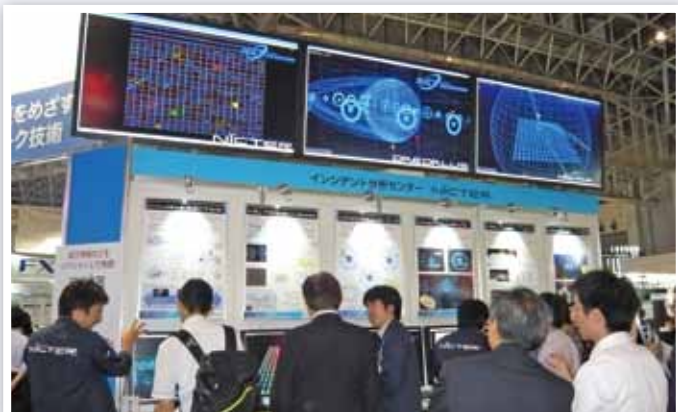
●耐災害ICT@StarBED³

検証対象地域のICT環境をStarBED上に忠実かつ大規模に再現し、災害シナリオに基づいてダメージを与え、通信インフラへの影響の観測や耐災害ICTと残存インフラの水平垂直統合動作確認などについてデモ展示を行いました。

●SDNによるデータモビリティサービス

パスプロビジョニングとOpenFlowなどのSDN制御技術連携させネットワーク品質に応じてセキュアなパスの構築・VPNの経路変更により、最寄りのクラウドにデータを自動的に移動させるデモ展示を行いました。

〈ネットワークセキュリティ技術〉



●インシデント分析センター nicter

ネットワーク上で発生する様々な攻撃に対して迅速な対応を目指したサイバー攻撃観測・分析・対策システム nicter、および組織内ネットワークにおける通信状況とサイバー攻撃の警告とを、統合的かつ視覚的に分析可能なプラットフォーム「NIRVANA改」などの動態展示を行いました。



●REGISTA

ユーザが要求するセキュリティレベルに応じて、ネットワーク上に潜むセキュリティリスクを分析し、可視化や適切な対策の提示を行う「REGISTA」の動態展示を行いました。